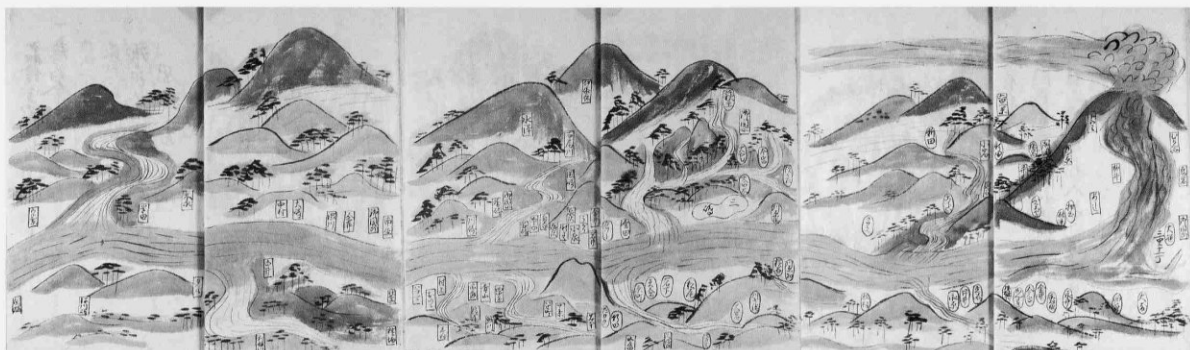


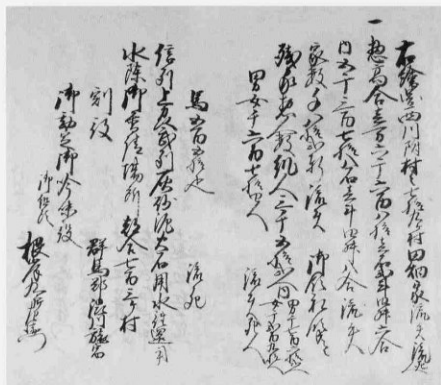
# 天明の浅間焼け



天明3年(1783)7月8日に起こった浅間山の大噴火は、日本火山活動史上最大と言われています。火口から噴出した火砕流が北側に流出し、近接村落を埋没させながら吾妻川に流入しました。川の流水と合流した泥流は、周囲の岩石・立ち木・家屋などを巻き込み、兩岸の耕地を埋め、橋を落としながら流れ下りました。その被害も日本の火山災害史上最大と言われています。また、直接的な被害だけではなく、冷害を引き起こし、天明の大飢饉への引き金となりました。上野国内では、食糧不足や物価の高騰から、打ちこわし騒動が各地で起きました。

この史料は、後年の筆写(安政3年)ですが、被害状況や当時の物価なども記載されています。

(参考資料)『群馬県史』通史編6 847~900頁



\*川附村々・山沿いの村々

(後略)

御組頭

根岸九郎左衛門

御勘定御吟味役

群馬郡澁川旅宿

信州・上州・武州、灰砂泥火石用水・往還・用水除御普請場所 都合七百三ヶ村

別役

流失死

男女千六百七十四人

内男千七百六十二人

女千二百九十人

残家懸人数飢人三千五十二人

内男千七百六十二人

女千二百九十人

家数 千八百三軒流失 御願私領共

一惣高合 一万六千六百八十一石二斗四升六合

内 五千三百七十八石一斗四升八合

右絵図面川附村々七十九ヶ村田畑家流失・流失死

一惣高合 一万六千六百八十一石二斗四升六合

内 五千三百七十八石一斗四升八合

家数 千八百三軒流失 御願私領共

一惣高合 一万六千六百八十一石二斗四升六合

内 五千三百七十八石一斗四升八合

右絵図面川附村々七十九ヶ村田畑家流失・流失死

一惣高合 一万六千六百八十一石二斗四升六合

内 五千三百七十八石一斗四升八合

家数 千八百三軒流失 御願私領共

一惣高合 一万六千六百八十一石二斗四升六合

内 五千三百七十八石一斗四升八合

右絵図面川附村々七十九ヶ村田畑家流失・流失死

一惣高合 一万六千六百八十一石二斗四升六合

内 五千三百七十八石一斗四升八合

家数 千八百三軒流失 御願私領共

一惣高合 一万六千六百八十一石二斗四升六合

内 五千三百七十八石一斗四升八合

右絵図面川附村々七十九ヶ村田畑家流失・流失死